



エチオピア・アデイスアベバ

国をも元気にさせる 若手女性企業家の試み

世界銀行総裁補佐官 三輪桂子

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



これはエチオピアの首都、アデイスアベバのサンダル・靴メーカー、ソールレベルズ社の様子だ。同社は若い女性企業家ベツレム・アレムさんが2004年に起業した中小企業だ。靴底は古タイヤをリサイクルしたゴム、ほかはエチオピアで手に入る天然素材や再生した素材を使う。エチオピアの伝統手工業の技術を駆使した履き心地のよさと、個性的なデザインがウリだ。同国で初めて国際公平貿易認証を受け、アメリカの若者に人気のショッパや、ネットでも売られている。さらに社会から取り残された人々を、訓練を受けさせたいと雇っている。60人がフルタイム、100人がパートで働き、地元の雇用創出にもつながっている。創業6年目の今年は150万ドルの売り上げを見込む。エチオピアでは中小企業が全体の約90%を占める。都市部では失業率が高いため、中小企業が雇用拡大に果たす役割は大きい。大学を卒業して就職先を探す若者が増える同国に、アレムさんのような企業家も増えてほしいものだ。

アレムさんの夢は膨らむ。新工場を環境に優しい資材で建て、再生可能エネルギーも使用。靴のデザインを増やし、輸出も拡大——。援助よりも貿易が国の社会向上、そして経済拡大につながると信じている。

(写真も筆者) ㊦